

大豆は子実が肥大する時期です。 適期防除と雑草対策で高品質の大豆生産を！

本年の開花期は平年並です。圃場を観察し、適期に病虫害防除を行いましょう。また、除草を行い登熟環境の改善を図りましょう。

1. 紫斑病・マメシクイガの防除

- 紫斑病・マメシクイガは大豆の子実品質に影響を及ぼすため、適期に防除を行いましょう。
- マメシクイガ** は日長に反応して成虫の発生時期が決まり、8月下旬～9月上旬に産卵盛期となります。ふ化幼虫の侵入を防ぐため、**8月25日頃と9月5日頃の2回防除**が基本です。
- 紫斑病** は感染しやすい時期である**開花後25日～35日**に防除を行います。マメシクイガと同時防除の場合は適期にずれが生じますが、マメシクイガの発生時期に合わせ、防除を行いましょう。



表1 紫斑病・マメシクイガの防除適期と防除時期の目安

品種	開花期	紫斑病防除適期 (開花後 25～35日)	マメシクイガ防除適期
リュウホウ	7月25日頃	～8月29日	1回目：8月25日頃 2回目：9月5日頃 (1回目散布の約10日後)
エンレイ	7月27日頃	～8月31日	
里のほほえみ	7月29日頃	～9月2日	

防除例：

1回目防除 (8月25日頃)
紫斑病 + マメシクイガ



2回目防除 (9月5日頃)
マメシクイガ

2. その他の病害虫防除

1) ダイズシストセンチュウ

○通常7月中旬以降に、大豆の生育が停止し草丈が低く、茎葉が黄変します。密度の高いほ場では根粒が激減し、収量も大きく減少する可能性があります。

○機械や長靴に卵を含んだ土壌が付着し他の圃場に伝播していきます。防除・刈り取りなどで発生圃場に入る場合は一番最後に入り、機械や長靴は洗浄します。

○被害株が少ない場合は、早めに抜き取り圃場外に搬出することで、次年度の卵の数を格段に減らすことができます。



ダイズシストセンチュウによる被害

2) ジャガイモヒゲナガアブラムシ

○平成12年に庄内で大発生し、被害の大きいところでは早期落葉・大幅な減収となりました。

○葉に黄色い斑点があったら葉裏を確認し、1枚の葉（小葉）に10匹以上のアブラムシが確認できるようなら防除を検討しましょう。薬剤は、葉裏にいるアブラムシにしっかりかかるように散布しましょう。



ジャガイモヒゲナガアブラムシ

3) マメハンミョウ

○成虫は、雄11～14mm、雌14～19mmの細長い甲虫です。近年発生が多く、群生して大豆の葉を食害します。体液には毒があり、皮膚につくと、水ぶくれができてやけどのような症状を起こします。

○防除する場合は、マラソン粉剤3を使用します。



食害するマメハンミョウ

3. 雑草対策

○除草剤の効果が期待できないくらい大きい雑草は、実（種）が付く前に圃場外に搬出するなど、この時期に圃場を見回しましょう。

○うね間散布とされている除草剤は大豆の茎葉にかからないように散布します。株間に残草がある場合は、見つけ次第、手取り除草を行いましょう。

○今の時期に、雑草対策を行っておくと、秋に思いがけなく大きくなった雑草の抜き取りをする手間が省けます。さらに草との競合がなくなり、大豆の登熟を助けます。

熱中症予防強化月間

暑い日は無理をせず、
こまめに水分と休憩をとりましょう。